

毛呂山町議会議員 第15号

岡部かずお町政見聞録

発行人 岡部 和雄
(毛呂山町議会議員)

毛呂山町毛呂本郷 227 番地
TEL 049-294-0018
FAX 049-294-5345
<http://kazuo-club.jp>

責任世代 岡部かずお 地方再生へ全力投球！



時下、益々御清栄の事とお慶び申し上げます。

東日本大震災で影が薄くなった統一地方選挙でありましたが、近年にない重要な意義を持っていました。

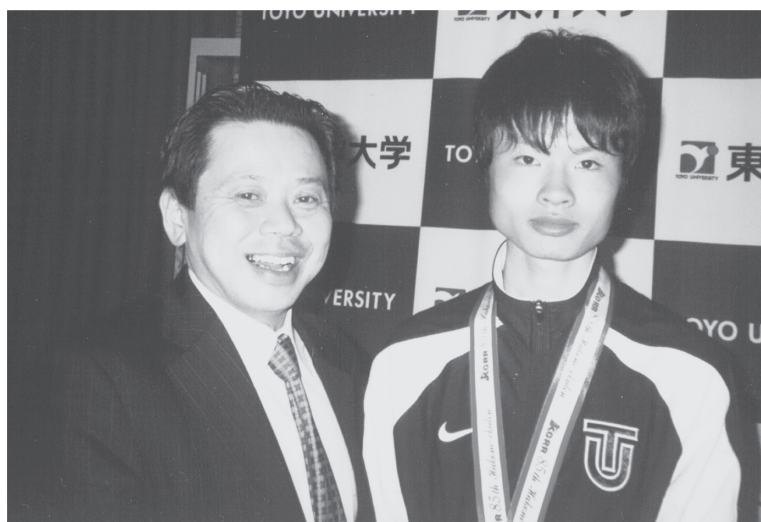
震災を受けて、改めて、住民・地域社会・防災機関がそれぞれの立場から出来る限りの対策を講じることの重要性を認識しました。

また政治においては、地方政治の二元代表制（首長と議会）の機能回復にどのような処方箋を示すのか、地方分権の将来像をどう描くのか、正に地方にとつての再生の足がかりになるチャンスでした。しかし、有権者の関心は低く、投票率も史上最低の中、地方政

治の基盤劣化と不安定化、また根深い政治不信が残りました。

大震災を契機に切実に求められている地方の再生の芽は、選挙を通じて、生まれたのだろうか。政治全般の危機であります。今こそ、町民の方々一人ひとりに何が出来るのか、また地方政治に何を求めるのか、次世代への橋渡しの「責任世代」として多くの皆様の声を聞き「突破口のある即戦力の議員」として全力投球して参りますので、皆様の変わらぬご支援をお願い申し上げます。

毛呂山町議会議員 岡部 和雄



平成 22 年母校東洋大学陸上部「山の神」柏原竜二選手と
(箱根駅伝優勝パーティー)



平成 22 年 11 月連合特別点検（泉野小）

岡部かずお
プロフィール

- 昭和 33 年（1958 年）毛呂本郷に生れ、毛呂小・中学校卒業。
県立松山高等学校卒。東洋大学経済学部卒業。
- 昭和 62 年 29 歳で毛呂山議会議員初当選
- 平成 11 年 9 月第 45 代毛呂山町議会議長に就任
- 各常任委員長・西入間広域消防組合議会議長等歴任
- 平成 19 年 8 月 1,507 票の得票で 6 回目の当選

責任世代！

岡部かずおレポート

責任世代の受益と負担！

生涯を通じた受益と負担の推計を見ると、各世代の「受益」は、社会保障給付と政府投資、「負担」は、社会保障負担と所得税、消費税などの税負担から構成されています。

生涯を通じた純利益（受益－負担）が最も大きいのが70歳以上の④3,533万円であり、最も純利益が小さいのが将来世代の①-7,700万円です。つまり世代間格差は最大で1億1,233万円です。若い世代ほど「負担が大変」の構造は何故起きるのか、私は、各選挙における投票率と相関関係があるのではないかと推測します。

各選挙が低投票率であります。50歳世代つまり、負担増の世代ほど投票に行かない事が明らかです。特に20歳代は低投票率であります。

また20歳以下やこれから生まれてくる世代は投票権が無く、意思表示をする機会がありません。これでは「将来に希望を持てる」事より「今を安心して暮らせる」ことを訴えた候補が有利になり、その事がますます世代間の格差を広げる結果になります。

頑張ろう日本！ 頑張ろう東北！ ネバーギブアップ！
今般の東日本大震災で亡くなられた方々のご冥福を
心よりお祈りすると共に被災された方々に心から
お見舞い申し上げます。

岡部 かずお

「おかべの視点」

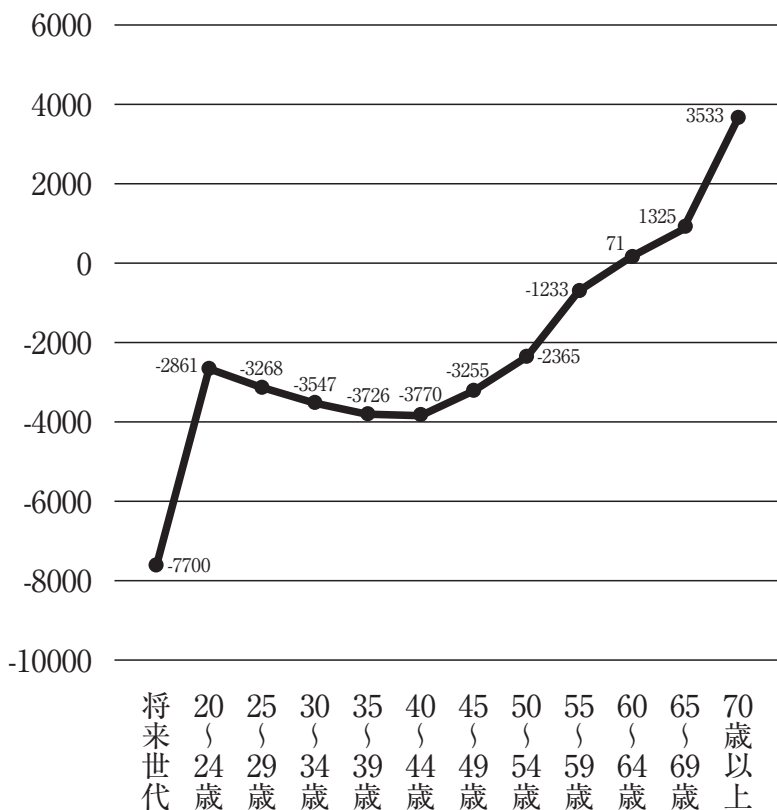
三月十一日午後二時四十六分。

役場三階の委員会室で左右に激しく揺れる異様な光景が目前に広がりました。その原因が東日本大震災によるものであることをテレビ報道で知りました。自然災害の恐ろしさと、その後の悲痛な現状を知り愕然とするばかりであります。国民誰もが考え方が大きく変化してしまった、またせざるを得ない大震災であります。

地方が更に疲弊します。地域経済・地方政治の衰退が止まりません。町民の方々に「夢」を提案する地方自治でなくてはなりません。名古屋市と阿久根市で見られた首長と議会の衝突は、「馴れ合い」に一石を投じた点は評価できますが、二元代表の相互がけん制しながら議論を重ね、合意形成していく事が自治の基本であります。憂慮されるのは、首長のワンマンと議会との対立を際立たせる「劇場型政治」です。巨大な予算を持ち、権力を持った首長独裁に議会が今、大きな役割を担っています。有権者の冷静な投票が望まれます。

生涯を通じた受益と負担

単位：万円



※三菱 UFJ リサーチ & コンサルティング
「MURC 政策研究レポート」



平成 22 年 11 月第 3 回ゆずの里商店街秋まつりにて